

農村開発・環境保全

ゴムの木プロジェクト一番手、ブラクールから

— ゴム樹液収入で、住民組合立ブラクール小学校の運営を支える日に向けて —

2009年10月開始のアグロフォレストリー事業で導入したブラクールのゴム苗木は、2010年6月に定植をしてから満6年が経過しました。前号P5で、収穫開始とお伝えしたスララ町タラヒク地区より、半年ほど早く植えているので、樹液採取も始まっているはずでした。ブラクールは、PFP事務所のあるスララ町から、車で5時間という辺境にあるため、担当者のモニター頻度が少なく、10月15日付でようやく現況報告が届きました。

- * 収穫量：7年前の受益者35世帯のうち18世帯で収穫を開始した。2年続きの干ばつで生育が遅れ、各300本配布のうち、平均して70-80本しかまだ採取が始まっていない。また、通常は一本当たり毎月1kg収穫できるが、干ばつの影響で、今年はその半分（80本で月40kg）しか集められない。
- * 収入：kgあたりの価格は20ペソで、収穫が始まった受益者でも、月平均収入は約800ペソ、年約9,600ペソ程度にとどまっている。しかし、これでも事業実施前の平均年収に比べると倍増した。
- * 見通し：今年は雨が多く、現時点で干ばつの兆候はない。幹が太くなり樹液も増えると期待している。

* * * * *

SCMSI校の一つだった時代から数えると、日本によるブラクール校支援歴は33年ほどになります。住民組合の自主財源の切り札、ゴム樹液が十分かつ安定した収入源となるまで、今しばらく、元FOT会員11名によるブラクール支援継続をお願いすることになりそうです。（本年度は教師給与2名分に当たる月額2万円を支援）

ボルールのアグロフォレストリー事業

- * スコップとココヤシ苗木購入・配布（4月）
- * 事業の概要説明と理念技術研修2回実施（5月）。その後もほぼ月1回受益者が集まって、作業の段取りの相談などを行っている。
- * これまでに植えた樹種：バナナ、ココヤシ、在来種苗木（ナラとラワン）。地滑り防止や竹串を含む竹細工用の竹の定植も完了した。
- * 2014年に実施したゴム苗木の成育状況は、農業技術者ボニファシオにより、モニターが続けられている。1年前の干ばつにもかかわらず8割の苗木は育っている。（NPO法人WE21ジャパンみどり助成）



ココヤシ苗木配布作業（4月）

レイクセブ町エルアリス地区でも

4月に開始したレイクセブ町エルアリス地区でのアグロフォレストリーは、雨期に入った6月から、バナナに始まり、コーヒーや在来種の苗木の定植も終わりました。傾斜地農法研修も8月に終了し、あとは品薄で入手が遅れているゴム苗木の定植と定植後の手入れ作業が残るのみです。

この地区にも、元SCMSIデコロンハイスクール校長だったアニータ先生が運営する先住民族学校があり、「森を愛する子どもに」の方針の下、父母も整地や苗移植の共同作業に率先して参加しています。

バナナの苗木を植えた斜面（写真）には、大きな切り株が散見されます。各種熱帯樹種が茂った森であった痕跡です。合計30ヘクタール対象の事業は3月まで続きます。（イオン環境財団助成）



3年継続「タシマン村の環境修復と持続可能な収入向上事業」は、2年目事業が完了しました！

2年目事業で植えたタケヨン地区の30ヘクタールを加えると、2003年以来、私たちが現地パートナーPFPと協働して実施したアグロフォレストリーの総面積は624ヘクタールになります。ミンダナオ島の破壊された森林面積からすれば大海の一滴ですが、少なくとも、この事業の受益者20世帯は、それまでの焼き畑やコーン単作で環境を破壊する側から、環境の修復と持続可能な森林農業の担い手になりました。ゴムやコーヒー苗の収穫が始まるまでの数年間、樹間でコーンを育てながらその手入れに励む住民を、私たちが現地パートナー・PFPとともに見守り励ましたいと思います。（三井物産環境基金助成）